



はじめに

医学教育振興財団は、1979年（昭和54年）に当時の文部省の認可により設立された財団法人であり、わが国の医学教育を担当する全医科大学・医学部（80校）で組織する医学教育の改善向上を目指している。発足当時の寄附行為第3条に、「日本ならびに諸外国の医学教育（卒後の臨床研修を含む）の方向と実情に関し、不断の調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供するなど、日本における医学教育の充実向上について寄与し、もって医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的にする。」と規定した。

2008年の公益法人制度改革3法施行に伴い、2013年4月1日に、公益財団法人として内閣総理大臣から認定を受けた。公益財団法人移行に当たり、小川秀興（学校法人順天堂理事長）が理事長に就任した。

本財団の目的・事業は定款に次のとおり規定している。(1)医学教育に関する調査、研究及び資料の収集並びにその成果の医学教育機関に対する提供、(2)医学教育の方法の研究に対する助成、(3)医学教育機関の教職員及び学生に対する研修の実施及び援助、(4)医学教育資料の発行等医学教育機関から委託された事業、(5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業。平成27年度からは新たに、基礎研究医養成支援事業として、各大学が実施している基礎研究医養成プログラムに在籍する学生に奨学金を支給する制度を開始している。これらの事業遂行のために、運営委員会、英国短期留学選考委員会、審査委員会を常置している。

^{*1} Japan Medical Education Foundation

^{*2} Hideoki Ogawa（公財）医学教育振興財団

1. 公益財団法人 医学教育振興財団の役員（平成29年7月1日現在）

理事長	小川秀興（順天堂大学理事長）
常務理事	跡見 裕（杏林大学学長） 福島 統（東京慈恵会医科大学教育センター長）
理事	高橋 雅英 名古屋大学 理事・副総長 内木 宏延 福井大学 医学部長 堀尾 嘉幸 札幌医科大学 医学部長 前野 哲博 筑波大学医学医療系 教授 吉岡 俊正 東京女子医科大学 理事長・学長
監事	冲永 佳史 帝京大学 理事長・学長 炭山 嘉伸 東邦大学 理事長
評議員	岡村 吉隆 和歌山県立医科大学 理事長・学長 川崎 明徳 川崎学園 学園長 紀伊國献三 笹川記念保健協力財団 最高顧問 栗原 敏 東京慈恵会医科大学 理事長 塩田 浩平 滋賀医科大学 学長 高久 史磨 地域医療振興協会 会長 田邊 政裕 千葉県立保健医療大学 学長 福井 次矢 聖路加国際大学 学長 宮園 浩平 東京大学 医学系研究科長 山下 敏夫 関西医科大学 理事長

2. 医学教育指導者フォーラム

1987年から行っている。第26回（2014年）から第29回（2017年）の医学教育指導者フォーラムの概要を表1に示す。医学教育指導者フォーラムの趣旨は、「大学医学部における医学教育の改善ならびに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任のある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報

表1 医学教育指導者フォーラム

	開催日	会場	主題	講演者	演題	総合討論司会
第26回	2014年 7月15日	東京慈恵会 医科大学	「医学教育における パフォーマンス評価 －パフォーマンス評 価による学習の質の 評価－」	Jane Dacre Professor, University College London Medical School Trudie E Roberts President, the Association for Medical Education in Europe / Director, the Leeds Institute of Medical Education, University of Leeds Paul Stuart Worley Dean, School of Medicine, Deputy Executive Dean, Faculty of Medicine, Nursing and Health Sciences, Flinders University, Australia Rajin Arora Deputy Director, Collaborative Project to Increase Production of Rural Doctors, Ministry of Public Health Assistant Director, Human Resource Management, Lampang Regional Hospital, Thailand	The Assessment of Clinical Competence in Undergraduate and Postgraduate Medical Examinations Workplace-based Assessments: Use and Abuse Community-based medical education and health care: A harmonised future? CPIRD: A Collaborative Approach of Rural Doctor Production in Thailand	伴 信太郎 日本医学教育学会理事 長 大滝 純司 北海道大学医学教育推 進センター教授
第27回	2015年 7月28日	東京慈恵会 医科大学	Community- based Medical Education – 多様な臨床実習の場 を求めて –	Derek Gallen National Director, UK Foundation Programme, UK Martin Hart Assistant Director, Education and Standards, General Medical Council, UK Peter McCrorie Dean of Medical Education, The University of Nicosia Medical School, Cyprus / Emeritus Professor of Medical Education, St George's, University of London, UK Stuart Carney Professor, Deputy Executive Dean and Medical Dean, Faculty of Medicine, The University of Queensland, Australia)	The U.K. Foundation Programme, Past, Present and Future The transition from medical school to practice: a regulator's perspective Teaching the Basic Sciences to Medical Students: the importance of horizontal and vertical integration Nurturing Clinical Academics - Reflections on the first 10 years of the UK Integrated Academic Training Pathway	前野 哲博 筑波大学医学医療系教 授 泉 美貴 東京医科大学教授
第28回	2016年 7月26日	東京慈恵会 医科大学	卒前教育と卒後研修 のシームレスな連携 －臨床研修の位置付 けを考える－			
第29回	2017年 7月25日	東京慈恵会 医科大学	基礎医学教育のあり 方と基礎研究医養成 の課題			

の交換並びに討論を行う」である。主題として学生評価としてのパフォーマンス評価、臨床実習の場の多様性、卒前臨床実習と卒後臨床研修との連携、基礎医学教育と研究医養成と、極めて重要な話題を取り上げている。第29回を例にフォーラムの流れを説明する。主題「基礎医学教育のあり方と基礎研究医養成」に関して英国の演者からの基調講演がある。この講演はそれぞれ1時間であるが、その後にフロア討論が40分組まれ、活発な質疑応答が展開される。次に国内から3名の演者の話題提供があり、外国人演者を加え1時間半近くのフロア討論となる。ほぼ1日をかけ、主題について海外の情報と国内での先導的活動が紹介されるので、参加者はこの主題についてじっくりと学ぶことができる。翌日には文部科学省が主催する「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」があり、医学教育の課題について国内医学部間での経験共有の場となっている。

3. 国内医科大学視察と討論の会

1981年から行っている。毎年、全国医科大学・医学部から1校を選び（地域、国公立を考慮）、全国の医学部教員が2日間にわたり視察とその医学部が行っている教育についての討論を行うものである。視察を受ける大学の学生もプログラムの一部に参加し、学生と教職員が他大学の見学者と一体となってその医学部のGood Practiceの経験を共有する。毎回100名を超える参加者がある。表2に第34回から第37回までの視察校とその医学部で行われているGood Practice（講演主題）を示す。この活動は、全国80医学部が行う自主的Peer reviewであり、医学部自らが自己改善のために行っている活動と言える。

4. 英国大学医学部における臨床実習のための短期留学生の派遣（表3）

この短期留学制度は1990年から始まった（NewcastleとLeicesterにそれぞれ4名合計8名派遣）。このプログラムの始まりについて、医学教育白書1990年版に西園先生が、医学教育講演会、指導者セミナーの項に書かれている。「89年は1月17日、18日に行い、講演会はイギリスの

GMCを代表して、レスター大学医学部のR.キルパトリック博士、ニューキャッスルアポンタイン大学卒後教育部長J.アンダーソン博士による講演があった。この席上で、卒前教育の両国の比較が話題となり、臨床実習の質の違い、すなわち、患者を対象とした実物教育をどこまで体験させるかが問題となった。両講師の好意で、英国での臨床実習をわが国の学生に体験させることとなり、1990年3月には8名の医学生が両大学に短期留学することとなった。」2006年から5医学部20名派遣を行っていたが、Peninsula医科歯科大学医学部の機構改革などにより16名派遣まで減ったが、現在は5医学部19名で実施している。短期留学を終えた学生たちの報告書は、「英国大学医学部での臨床実習のための短期留学 Clinical Elective Attachment」として毎年発刊され、多くの医学生がこの報告書を読み、次の年度の短期留学に応募してくる。英国の医学生が自ら患者のもとに行き実習を行う姿を見て、日本の医学生も参加型臨床実習の経験を積みあげている。

5. 医学教育研究の助成

本財団初代理事長の懸田克躬先生のご功績を偲び、若い医学教育研究者を表彰することにより、医学教育研究を推進しようと1996年に懸田賞が作られた。懸田先生は1996年3月1日にご逝去になった。その後毎年、日本医学教育学会に候補者の選考を依頼し、選考結果の報告を受けて理事長が決定し、医学教育学会大会の際に本財団から賞状と賞金の授与が行われる（http://www.jmef.or.jp/index_main.html）。

財団は医学教育に関する研究助成金制度を設置し、原則として毎年、医学教育研究を助成している。助成対象となる研究は、審査委員会で審議され、選定される（<http://www.jmef.or.jp/josei/joseijuyosha.html>）。

表2 国内医科大学視察と討論の会

	視察日 or 開催日	視察先	講演主題
第34回	2014年9月18・19日	岩手医科大学医学部	特別講演①「医学教育の現状と課題」 寺門 成真
			1. 地域医療人育成に向けて 1 - 学部教育の成果と課題（全人教育と態度・技能の向上）
			2. 地域医療人育成に向けて 2 - 卒後教育における大学の役割
			3. 医療系総合大学としての多職種連携教育の試み
			4. 教育技法の改善（認知領域のStudy skill 低下に対して）
			学生との懇談
			特別講演②「医療系総合大学としての岩手医科大学の使命」小川 彰
第35回	2015年9月10・11日	兵庫医科大学	総合討論
			特別講演①「医学教育の現状と課題」 寺門 成真
			1. 建学の精神とリサーチマインドを涵養するカリキュラム
			2. 医科大学・医療大学連携による4学部合同チーム医療教育
			3. グローバルに活躍する人材育成を目指した教育
			4. 教育技法の改善：チーム基盤型学習の導入
			学生との懇談
第36回	2016年9月15・16日	東京医科歯科大学医学部	特別講演②「兵庫医科大学の歩み：地域への貢献と研究」中西 憲司
			総合討論
			特別講演①「医学教育の現状と課題」 佐々木 昌弘
			1. 医歯学融合教育：より深化した融合をめざして
			2. 診療参加型臨床実習：導入と質保証に向けた取組み
			3. 研究医養成：将来を担う資質を培う
			4. Global Human Resources Development : Expanding Horizons for Future Healthcare Professionals
第37回	2017年9月7・8日	山梨大学医学部	学生との懇談
			特別講演②「医学教育の改革について」田中 雄二郎
			総合討論
			特別講演①「医学教育の現状と課題」 森 孝之
			1. 反転授業用ビデオ教材作成ソフト、MediaDEPOを利用した臨床実習
			2. 地域医療における臨床教育について
			3. ライフサイエンス特進コース（研究医養成コース）について
第38回	2018年9月7・8日	山梨大学医学部	4. 山梨大学医学部における国際交流・国際教育について
			学生との懇談
			特別講演②「大学の授業改善と資質・能力の育成－OPPA論を中心にして－」堀 哲夫
第39回	2019年9月7・8日	山梨大学医学部	総合討論
			特別講演①「医学教育の現状と課題」 寺門 成真

6. 刊行物の発行

財団は事業内容をまとめた機関誌『J.M.E.F.』をはじめ、国内医科大学視察と討論の会、英国大学医学部での臨床実習のための短期留学、医学教育指導者フォーラムなどの医学教育関連資料を発刊している。

表3 英国医学部における臨床実習のための短期留学生の派遣

		応募学生数	受け入れ先	人数
2014年度	第26回目	54	Newcastle大学医学部	4
			London大学 St George's校医学部	4
			Peninsula医科歯科大学医学部	6
			Oxford大学医学部	2
2015年度	第27回目	54	Newcastle大学医学部	4
			London大学 St George's校医学部	4
			Plymouth大学 Peninsula医学部	2
			Oxford大学医学部	2
			Glasgow大学医学部	4
			Leeds大学医学部	3
2016年度	第28回目	63	Newcastle大学医学部	4
			London大学 St George's校医学部	4
			Plymouth大学 Peninsula医学部	2
			Oxford大学医学部	2
			Glasgow大学医学部	4
			Leeds大学医学部	4
			Dundee大学医学部	1
2017年度	第29回目	52	Newcastle大学医学部	4
			London大学 St George's校医学部	4
			Oxford大学医学部	2
			Glasgow大学医学部	4
			Leeds大学医学部	3